

特集

婦人科がんの予防 update

企画者のことば

松村謙臣*

最近、喫煙以外に、食事・運動などの生活習慣とがんの発生との関連が報告されている。生活習慣の変化に伴い、卵巣がんと子宮体がんは増加傾向にある。また、家族性の卵巣がんや子宮体がんも注目されている。一方、性行動の変化により若年女性の子宮頸がんが増加しているが、子宮頸がんを予防するための HPV ワクチンは、社会的要因もあってわが国では接種率が低い。

がんの予防には、一次予防(発生の予防)、二次予防(早期発見)、三次予防(再発予防)がある。がんを予防するための診療や生活指導は、がんを治療する医療行為とはまったく別の概念

のもとに行われ、そこには遺伝学的、疫学的、あるいは社会学的な知識が必要とされる。産婦人科医が十分に婦人科がんの予防について知識を持ち、診療や患者の指導を行うことが、女性の健康増進につながる。

本特集では、婦人科がんの予防に関連した最新の知見について、今一度整理し正しく理解することを目的とし、当該分野のエキスパートの先生方にご執筆いただいた。特に、医師が日常診療において見過ごしがちな、疫学的なエビデンスや社会学的な事項について重点を置いた。本特集が、読者の方々の知識の整理と診療の向上に役立てば幸いである。

*N. Matsumura 近畿大学医学部産婦人科(教授)